

「2・11 集会」

2015年02月12日

2月11日の「建国記念の日」は1966年に制定された。当時の佐藤内閣が、従来の議員立法から政府立法に切り替え、大変な紛糾の末、強引に成立させた。2月11日は、戦前の大日本帝国憲法時代は「紀元節」であった。「紀元節」は神武天皇が国を平定し、天皇に即位した日とされている。しかし、これは神話であって、歴史的根拠に基づくものではない。また戦争中は、「紀元節」までに戦果を上げなければならないと、無謀な戦いを仕掛け、戦死者が多く出た日であった。その「紀元節」を「建国記念の日」として復活させた訳である。

世界各国の建国記念日は歴史的根拠を持っている。フランスは1789年、フランス革命が始まった日で、中国は1949年、天安門で中華人民共和国の建国が宣言された日である。イラク、リビアは軍事クーデターが成功した日で、フセイン、カダフィーの亡き現在は実施されていないだろう。建国記念日は、その国の建国を象徴する歴史的な日と定めている。日本は、天皇制と結びついた神話から制定している。時代錯誤も甚だしい。

日本基督教団は「建国記念の日」に反対し「信教の自由を守る日」とした。以来、この日には、全国各地の教会や地域で反対の集会、運動を重ねてきた。私は毎年、反対集会に参加してきた。神奈川教区、横浜地区は今年も「思想・信教の自由を守る横浜集会」を蒔田教会で開催した。弁護士海渡雄一氏を招き「特定秘密保護法の秘密 — ここが危ない秘密法」と題して講演がなされた。海渡氏はドイツの裁判所の壁画に刻まれた「憲法は権力を縛る鎖である」ということから話し始めた。そして、特定秘密保護法がいかにも、恐ろしい法であるかを幾多の事例を上げながら、熱意溢れる講演をされた。国家には秘密はあるだろうが、その秘密指定は広がり、知る権利は著しく制限されていく。また厳罰化も加速する。戦時中の「治安維持法」のように、権力が特定秘密保護法によって国民生活を縛ることになる。しかし、萎縮してはならないと結ばれた。

「日の丸・君が代」強制に反対する闘いをしている外山喜久雄氏が学校式典で、日の丸・君が代が強制されている実情を報告された。国旗・国歌法が制定された時、強制しないと明言していた。しかし現実には、厳しい強制を受けている。これが、権力の魔性である。学校教師は自由がなく、教育委員会、校長の指令通りに動かされている苦悩を訴えられた。

午後、県民センターホールで「『建国記念の日』に反対する2・11神奈川県民のつどい」が持たれた。教育評論家で、テレビドラマ「3年B組金八先生」のモデルの三上満氏が「子どもたちに明るい未来を～建国記念の日に学校・教育を考える～」と題して講演された。前半は、「イスラム国」の問題から、戦争をする国を目論む安倍政権の姿勢を批判し、憲法9条の平和主義について多くを語られた。殺害された後藤健二氏の母親の石堂順子さんの「この悲しみが憎悪の連鎖となっ**てはいけない**」というメッセージ、「9.11同時多発テロ」で家族を失った遺族たちの報復攻撃に反対した声と運動、更に宮沢賢治の童話などから、9条は世界に和解と平和を実現していく歴史的な意義を持っていると力説された。後半は、教育問題に関して、良い子を作ろうとする平板で、安直な「道徳教育」の危険性を訴え、子ども教育は多様で、奥深いものであることをご自分の体験を踏まえて語られた。

信教の自由、平和を求める草の根運動は真摯に続けられているが、あまりマスコミは取り上げない。一方の国家主義的方向を目指す人々もヘイトスピーチを頂点に草の根運動を盛んに展開している。キリスト者は主イエスに従い、平和を不断に求め続ける者である。